

「会員短信 27」

「郷土の古典芸能のおかしみ」 柳紅生

今年はコロナで様々な活動が影響を受けた。幸い富山では、今は地域の色々な教室も再開され、古典芸能「千代音加礼踊り」を伝えるべく練習している。

「チョンガレ」の語源は、悪ふざけを意味する「ちょぼくれ」「ちょろける」とのこと。「千代音加礼」は時宗の念仏踊りを経て、蓮如上人の浄土真宗布教、さらに江戸時代には、願人坊主・崩れ山伏等が諸国を巡り流行らせた。娯楽の少ない民衆は社寺にて輪踊りを催し、民衆の中に広く定着した。体の力を抜いて左右の重心の移動で一晩中踊りぬく。そんなフラフラとした盆踊りのようなもの。

また、「南京玉簾」も練習している。我が郷土の越中五箇山に伝わる「南京玉簾」の別名「編竹踊り」では、「着着コ着コ着コ、ウ茶茶コ着コ着コ」「チャチャコチャコチャコ、ウチャチャコチャコチャコ」と掛け声を入れた古い歌が残っている。「着いたぞ着いたぞ、面白いことを言うものが着いたぞ」という意味か。「お茶を濁す」は、その場しのぎの処置をするの意味。「茶化す」「滅茶苦茶」「お茶らげる」などの意味があるが、「茶」の字を使う語源はわからない。「道化」は、滑稽な仕草を入れて人々を笑わせたり楽しませたりしながら仏の道を説き、教え導くこととある。郷土の古典芸能のオノマトペ、繰り返し、掛け声、比喩、擬人化などは、私の滑稽俳句にも浸透している。

アロハシャツ釦を外す旅ごころ
ラムネ玉不要不急の落としどころ